

同乗するお客様に不安を与えないための運転を身につける

(株)ミニミニは全国に400店舗を展開する不動産・賃貸の仲介企業である。各店舗ではルームアドバイザーと呼ばれる社員が来店するお客様の条件に合った最適な物件を提案。気になる物件が見つかったら、ルームアドバイザーがクルマでお客様を現地まで案内している。

8月1日と7、8日に、同社の安全運転研修が鈴鹿サーキット交通教育センターで開催され、3日間で同社西日本エリアのルームアドバイザー160名が受講した。

(株)ミニミニ総務部課長の牧幹康さんは「お客様を乗せるクルマを『走る応接間』と私たちは呼んでいます。『応接間』ですから、事故はもちろん、お客様をヒヤリ



40km/hで走行し、正面にある信号の点灯を確認したら急ブレーキをかける反応制動。お客様を乗せている時、急ブレーキを使わないようにするため、安全な車間距離(車間時間)をどのようにとるべきか考えてもらう

ハットさせる運転もしないように注意しています」という。「近年当社では新卒の採用を増やしています。運転免許取得は採用条件の1つですが、運転のスキルにはバラつきがあります。入社後3ヵ月間はお客様を乗せずに配属された店舗周辺の道路を走り、運転に慣れてもらっています。しかし、それだけでは不十分であると考えていました。そこで、昨年より鈴鹿サーキットで新人社員を対象にした安全運転研修を開始したのであります。

研修の最初は、インストラクターが日常点検のポイント、正しい運転姿勢、クルマの死角についての説明。「お客様をクルマに乗せた後、すぐ運転席に座らず、必ずクルマの周囲に何もなことを確認してください。案内する物件の近くでは子どもが遊んでいて、クルマの死角に隠れている場合もあります。運転席からは見えない死角があるので、乗車する前に自分の目で安全を確かめましょう」とインストラクターが注意を促す。



日常点検ではタイヤの残り溝の確認方法など基本的な項目から説明

パイロンで幅員を狭められたコースを繰り返し走行



インストラクターが安全で確実に車庫入れを行うためのポイントを指導

同社では狭い路地での軽微な事故が多いことから、実技は受講者に車両感覚を身につけてもらうことに重点が置かれた。まずは車庫入れと縦列駐車。用意されたスペースは通常の駐車場よりも狭くなっている。インストラクターが安全・確実に行う模範を見せる。慣れないうちはハンドル操作と、後退・前進は別々に行うように強調した。

次は狭路走行。コースの幅員はパイロンによって狭められているため、受講者は降車して、車両とパイロンの位置関係を目視で確認し、クルマをパイロンに接触させないように慎重に走行する。この他、反応制動(写真参照)などが行われ、安全運転研修は終了。受講したルームアドバイザーからは「駐車をする時に『危ないかな』と」

思ったら、クルマを降りても確認することの大切さを学びました。お客様を乗せている時はもちろん、日頃も丁寧な運転を心がけたいと思います」という声がかれた。

3日に渡る研修を終え、牧さんは「受講した社員は、お客様を乗せて運転することの責任をあらためて感じてくれたと思います。社員は会社にとって貴重な『人財』です。社員の安全運転意識を高めることが、お客様だけでなく私たちの命を守ることもつながると私たちは考えています」と語った。

TOPICS



スマートフォン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでもご覧いただけます。
<http://safetymap.jp/>

Hondaはインターネット※から収集した急ブレーキ多発地点データと、交通事故情報および地域住民などから投稿される危険スポット情報を地図上に掲載した「SAFETY MAP」を公開している。これは、地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップ。今年3月のサービス開始時は埼玉県内のみであったが、9月より提供エリアが全国に拡大された。「SAFETY MAP」はパソコンやスマートフォンから無料で利用することが可能。

※3インターナビはHondaが開発した双方向通信型カーナビ。

3 SAFETY MAP サービス提供エリアを日本全国に拡大



兵庫県川西市の指導員による実演

Hondaでは、地域で活躍している交通安全指導者の方々に相互の指導方法の確認や意見交換を通じて指導力の向上に役立ててもらうことを目的に、全国各地で情報交換会や合同研修会を開催している。8月は8日と9日に宮城県、22日に埼玉県、22日と23日に福島県、兵庫県、佐賀県の各会場で実施された。5会場で158名の交通安全指導者が参加し、日頃、子どもや高齢者を対象にした指導の実演を行った。



宮城県大崎市の指導員による実演

2 交通指導員情報交換会・合同研修会 福島、埼玉、兵庫、佐賀、宮崎で開催



8の字走行体験



停止と安全確認

富山県警察本部では県内の中学校の生徒をサイクル安全リーダーとして委嘱している。サイクル安全リーダーは各学校の指導のもと、自転車通学する生徒に対して、交通ルールの遵守とマナーの向上や自転車の盗難防止を呼びかけている。

8月20~23日の4日間、富山県運転教育センター(富山県富山市)で、富山県サイクル安全リーダー研修会が開催された。生徒自身の安全意識の高揚と自主活動の活性化を図ることを目的としている。4日間で、県内83の中学校からサイクル安全リーダーに委嘱された生徒161名が参加した。

この研修会に本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロックが協力。現在、Hondaが全国で展開している高校生交通安全教育(6面参照)のプログラムを活用し、サイクル安全リーダーへの自転車教育(実技・座学)を行った。

実技では「8の字走行体験」「停止と安全確認」「スラローム」のほか、

傘さし運転などを体験してもらうことで、生徒にルールを違反した場合の危険性を伝えた。座学では交通ルールやマナーの重要性、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための教育が行われた。

参加した生徒が今回学んだことを、各々の学校での交通安全指導に活かすことが期待される。



人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうための座学

1 富山県内の中学生への自転車教育に協力